

知ってますか

技術の

あれ
これ

24

フランソワ・ゾラと エミール・ゾラ親子(1)

文学・芸術・科学と友情

ゾラ、セザンヌとバイユの三羽鳥

三浦 基弘

MIURA Motohiro

元大東文化大学講師



フランス作家との出会い ヴィクトル・ユーゴー

小さいころ、初めて接したフランスの作家はヴィクトル・ユーゴー（写真1 Victor Hugo 1802-1885）だったと思う。子ども向けの本『ああ、無情』であった。自分から選んだのではなく、かつて文学少女だった母から勧められたような気がする。主人公はジャン・ヴァルジャン。一切れのパンを盗んだがため、牢に入れられる。しかし、ある日、牢から脱獄。身分を隠して市長になり、貧しい人に恵みを与え、人々から慕われる。

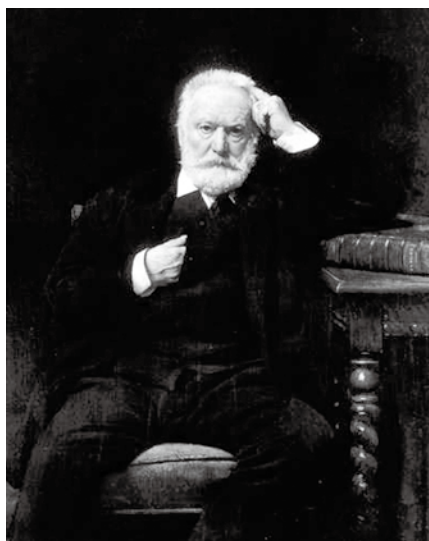


写真1 Victor Hugo (1802-1885)

筆者が教職に就いてから子ども向けの本、『東京の地下探検旅行』（筑摩書房1988年7月）を書かせていただく機会があった。

その原稿を執筆中、ジャン・ヴァルジャンが、暴動で怪我をした若い弁護士マリウスを背中に乗せ、下水道に潜る場面を思い出し、再び読んで見ようと『レ・ミゼラブル』（全4巻 ユーゴー著 豊島与志雄訳 岩波文庫）を購入。子どものころの印象とは大違いで、スケールの大きい内容に驚いた。そこで上記の拙著の本文中のコラム（下水道）に、つぎのように紹介した。

“……この暴動は1832年6月5日に起こりました。日本では天保3年。徳川十一代将軍家斉の江戸時代。もちろん、フランスのように、人の入れるような下水管はひとつもありませんでした。江戸の町にあったのは、どぶと、地面をほって溝をつくった掘割。日本とフランスをくらべた場合、日本の下水道のほうがとてもおくれていたと思うでしょう。しかし、ユーゴーは、『レ・ミゼラブル』でつぎのようなことをのべています。「科学者は長い研究ののち、およそ肥料のなかでもっとも効果のあるものは人間の糞であることを、今日みとめている。はずかしいことであるが、われわれヨーロッパ人よりもさきに中国人は知っていた。中国では小麦が、種を一粒まけば、120粒えられる。どの海鳥の糞よりも、都市の糞尿のほうが土地によい。大都市は最高の糞尿を産出する。都市の糞尿で平野をこやすならば、確実に成功をもたらすだろう”。

エミール・ゾラの父、フランソワ・ゾラは土木技師

ユーゴーが生まれてからほぼ40年後の1840年4月2日に、エミール・ゾラ（写真2 以下ゾラ Émile Zola